



## 平成24年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月11日

上場取引所 大

上場会社名 プレジジョン・システム・サイエンス株式会社

コード番号 7707 URL <http://www.pss.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 田島 秀二

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役業務本部長

(氏名) 秋本 淳

TEL 047-303-4800

四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成24年6月期第1四半期の連結業績(平成23年7月1日～平成23年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年6月期第1四半期	822	△10.7	△20	—	△48	—	△58	—
23年6月期第1四半期	920	△20.7	0	△99.8	△6	—	3	△97.3

(注) 包括利益 24年6月期第1四半期 △96百万円 (—%) 23年6月期第1四半期 13百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年6月期第1四半期	△642.88	—
23年6月期第1四半期	37.64	—

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
24年6月期第1四半期	4,795		2,765		54.3
23年6月期	4,602		2,861		58.8

(参考) 自己資本 24年6月期第1四半期 2,605百万円 23年6月期 2,704百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年6月期	—				
24年6月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成24年6月期の連結業績予想(平成23年7月1日～平成24年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,960	28.2	20	—	15	—	5	—	54.79
通期	4,000	27.3	40	—	30	—	10	—	109.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年6月期1Q	91,260 株	23年6月期	91,260 株
② 期末自己株式数	24年6月期1Q	— 株	23年6月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年6月期1Q	91,260 株	23年6月期1Q	91,260 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信(添付資料)4ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

・個人投資家向け説明会を12月10日(土)に予定しております。詳しくは弊社ウェブサイト(<http://www.pss.co.jp/>)をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(4) セグメント情報等 .....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響から、企業活動及び個人消費が低調に推移いたしました。また、資源価格の高騰や円高傾向も継続していることから、経済活動の停滞が懸念され、先行き不透明な状況となっております。

このような状況の中、当社グループは、バイオ関連業界において、遺伝子やタンパク質の解析や診断に利用される自動化装置の製造販売、それら装置に使用される試薬や反応容器などの消耗品類の製造販売に注力してまいりました。

当社グループの主力製品は、血液や組織細胞から遺伝子やタンパク質を抽出・精製するための自動化装置（DNA自動抽出装置）であり、当社の特許技術を利用したオリジナル製品群であります。これら製品は、大手企業へのOEM販売（相手先ブランドによる販売）を中心にワールドワイドに展開しております。主要なOEM先は、ロシユグループ、キアゲングループ、三菱化学メディエンス㈱、ライフテクノロジーズ社、ベックマン・コールター社、ナノストリング社などとなっております。

また、近年はOEMばかりではなく、自社ブランドによる販売展開にも注力しております。

当第1四半期連結累計期間は、主に、ロシユグループ及び米国OEM先向けの販売が低調に推移したことから、売上高822百万円（前年同期比10.7%減）、売上総利益318百万円（前年同期比10.9%減）となりました。

一方で、販売費及び一般管理費は、339百万円（前年同期比5.1%減）となり、その結果、営業損失20百万円（前年同期は営業利益0百万円）となりました。また、為替差損19百万円の計上などから、経常損失48百万円（前年同期は経常損失6百万円）、四半期純損失58百万円（前年同期は四半期純利益3百万円）となりました。

取引先別の販売状況は、下表のとおりであります。

	前第1四半期 連結累計期間		当第1四半期 連結累計期間		対前年同期 増減率	(参考) 前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
ロシユグループ	297	32.3	177	21.6	△40.4	944	30.1
キアゲングループ	174	19.0	247	30.1	41.7	700	22.3
その他OEM先	369	40.1	211	25.8	△42.6	1,136	36.1
自社販売先	79	8.6	185	22.5	133.8	360	11.5
合計	920	100.0	822	100.0	△10.7	3,142	100.0

ロシユグループ向け販売は、一昨年の新型インフルエンザの流行時に、OEM先において過剰在庫となった装置及び消耗品類の影響が未だに残る形となりました。在庫状況はかなり改善されておりますので、今後の回復は期待できるものと考えております。

キアゲングループ向け販売は、東日本大震災に関連し、スポットでDNA自動抽出装置の販売があったことなどから、好調に推移いたしました。

その他OEM先に関しては、米国のOEM先に対する販売が低調に推移いたしました。前連結会計年度から、米国における次世代シーケンサーの本格的な普及に伴い、その前処理装置としての需要が盛り上がり、基本的には米国OEM先との取引は拡大基調にあります。したがって、当第1四半期連結累計期間は低調であったものの、今後の回復は十分に期待できるものと考えております。

自社販売に関しましては、米国OEM先であるナノストリング社が供給している遺伝子解析装置につき、当社において日本顧客に対する販売に成功（約3千万円の装置を2台販売）いたしました。また、前連結会計年度より注力しているエピジェネティクス分野に対する装置及び試薬の販売が拡大してきたことなどから、大きく売上高が伸びました。

製品区分別の売上高は、下表のとおりであります。

	前第1四半期 連結累計期間		当第1四半期 連結累計期間		対前年同期 増減率	(参考) 前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
DNA自動抽出装置等	623	67.7	456	55.6	△26.7	1,990	63.3
試薬・消耗品類	231	25.1	220	26.8	△5.0	790	25.2
メンテナンス関連	61	6.7	57	7.0	△5.6	311	9.9
その他	4	0.5	87	10.6	—	49	1.6
合計	920	100.0	822	100.0	△10.7	3,142	100.0

(注) 当連結会計年度より、製品区分の表示を変更しております。当第1四半期連結累計期間を前連結会計年度における製品区分別に表示すると、DNA自動抽出装置等456百万円、プラスチック消耗品196百万円、その他理化学機器87百万円、その他製品81百万円となります。

① DNA自動抽出装置等

当区分は、当社の特許技術を利用した自動化装置の区分であり、ロシュグループやキアゲングループ等に供給しているDNA自動抽出装置の他、三菱化学メディエンス(株)に供給している免疫化学発光測定装置や自社ブランド展開しているタンパク質自動精製装置などがあります。

当第1四半期連結累計期間は、ロシュグループ及び米国OEM先向けの販売が低調に推移したことから、売上高456百万円（前年同期比26.7%減）となりました。

四半期毎の販売推移は、下表のとおりであります。販売単価は、為替の影響や機種により価格帯が異なることなどから、変動しているものであります。

	前連結会計年度				当連結会計年度
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
販売台数(台)	316	169	281	244	243
販売金額(千円)	623,144	355,111	546,226	466,266	456,905
販売単価(千円)	1,971	2,101	1,943	1,910	1,880

② 試薬・消耗品類

当区分は、DNA抽出やタンパク精製などに利用される各種の試薬及び当社装置の使用に伴い消費される反応容器などの専用プラスチック消耗品の区分であります。主要なOEM先は、OEM先が自社で試薬を製造販売しておりますが、プラスチック消耗品類は当社から購入する契約となっております。

当第1四半期連結累計期間は、売上高220百万円（前年同期比5.0%減）となりました。ロシュグループ向けの販売が低調でありましたが、当区分の売上高は、基本的には装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、順調な伸長が期待できるものと考えております。

③ メンテナンス関連

当区分は、装置メンテナンスやスペアパーツ（交換部品）販売などの区分であります。主要なOEM先は、OEM先が自社でメンテナンス対応しておりますが、スペアパーツは当社から購入する契約となっております。

当第1四半期連結累計期間は、売上高57百万円（前年同期比5.6%減）となりました。前年同期比で若干の減少となりましたが、当区分の売上高は、基本的には装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、順調な伸長が期待できるものと考えております。

④ その他

当区分は、上記①②③のいずれにも該当しない売上を区分しています。主には、研究施設などで利用される特注自動化機器や顧客要求に基づく新規の製品開発、他社製品の販売代理活動などの売上が区分されています。

当第1四半期連結累計期間は、米国OEM先であるナノストリング社が供給している遺伝子解析装置につき、当社において日本顧客に対する販売に成功（約3千万円の装置を2台販売）したことなどから、売上高87百万円（前年同期は4百万円）となりました。当区分の売上高は、開発案件の受注状況などにより大きく変動いたします。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 日本

当第1四半期連結累計期間の日本の売上高は694百万円（前年同期比5.0%減）となり、その内、外部顧客への売上高は249百万円（前年同期比44.3%増）となりました。ロシュグループ及び米国OEM先向けの販売が低調であったため、セグメント間の売上は減少しましたが、自社販売を中心に国内販売は好調に推移いたしました。一方、営業費用は673百万円（前年同期比8.0%減）となり、営業利益20百万円（前年同期は営業損失1百万円）となりました。

② 米国

当第1四半期連結累計期間の米国の売上高は121百万円（前年同期比52.5%減）となりました。米国OEM先への販売が低調に推移したことから減収となりました。一方、営業費用は124百万円（前年同期比47.7%減）となり、営業損失3百万円（前年同期は営業利益18百万円）となりました。

③ ドイツ

当第1四半期連結累計期間のドイツの売上高は452百万円（前年同期比8.5%減）となりました。ロシュグループ向けの販売が低調に推移いたしました。一方、営業費用は440百万円（前年同期比6.4%減）となり、営業利益11百万円（前年同期比50.1%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は4,795百万円となり、前連結会計年度末に比べて193百万円の増加となりました。現金及び預金が260百万円増加した一方、減価償却などにより有形固定資産が42百万円減少いたしました。

負債合計は2,030百万円となり、前連結会計年度末に比べて289百万円の増加となりました。流動負債において、短期借入金が100百万円増加、1年内返済予定の長期借入金が106百万円増加した一方、1年内償還予定の社債が200百万円減少いたしました。また、固定負債において長期借入金が330百万円増加いたしました。

純資産合計は2,765百万円となり、前連結会計年度末に比べて96百万円の減少となりました。四半期純損失の発生により利益剰余金が58百万円減少した他、為替換算調整勘定が41百万円の減少、少数株主持分が3百万円増加いたしました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間は、ロシュグループの在庫調整が長期化していること、米国OEM先への販売が低調であったことなどから、売上高822百万円、四半期純損失58百万円という厳しい結果になりました。しかし、その原因となったロシュグループ及び米国OEM先向けの販売は、第2四半期以降は回復が期待できるものと考えております。

また、年内には、小動物診断用の新製品「SpeLIA」の市場投入を予定している他、イタリアのディアソリン社向けの分子診断装置、香港のハイカンライフ社向けの遺伝子診断装置など、受注案件の開発活動も進捗しております。

経費面では、当第1四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は339百万円となり、通期予算に収まる範囲で順調に推移しております。第2四半期以降も十分に注意を払い、経費削減に努めてまいります。

こういった状況から判断し、現時点においては、期初の業績予想につき変更はありません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,990,458	2,251,428
受取手形及び売掛金	551,405	558,299
商品及び製品	689,475	727,777
仕掛品	44,385	64,146
原材料及び貯蔵品	30,417	36,120
繰延税金資産	21,792	20,685
その他	148,047	64,455
貸倒引当金	△1,819	△2,061
流動資産合計	3,474,163	3,720,851
固定資産		
有形固定資産	821,078	779,061
無形固定資産	23,836	22,398
投資その他の資産	283,477	273,320
固定資産合計	1,128,392	1,074,780
資産合計	4,602,555	4,795,631
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	232,078	239,868
短期借入金	—	100,000
1年内償還予定の社債	200,000	—
1年内返済予定の長期借入金	233,387	340,033
リース債務	11,213	11,244
未払法人税等	14,734	14,579
賞与引当金	5,916	29,300
その他	183,175	109,637
流動負債合計	880,505	844,663
固定負債		
長期借入金	807,235	1,137,847
リース債務	13,601	10,778
繰延税金負債	38,399	36,474
その他	991	830
固定負債合計	860,227	1,185,930
負債合計	1,740,733	2,030,593

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,217,194	2,217,194
資本剰余金	251,999	251,999
利益剰余金	340,298	281,629
株主資本合計	2,809,492	2,750,823
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△104,509	△145,701
その他の包括利益累計額合計	△104,509	△145,701
新株予約権	3,049	3,049
少数株主持分	153,790	156,866
純資産合計	2,861,822	2,765,037
負債純資産合計	4,602,555	4,795,631



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
売上高	920,904	822,177
売上原価	563,039	503,245
売上総利益	357,865	318,931
販売費及び一般管理費	357,507	339,415
営業利益又は営業損失(△)	358	△20,483
営業外収益		
受取利息	752	143
持分法による投資利益	5,314	—
負ののれん償却額	803	—
助成金収入	—	649
その他	821	422
営業外収益合計	7,691	1,215
営業外費用		
支払利息	4,870	3,846
為替差損	9,614	19,908
その他	163	5,948
営業外費用合計	14,649	29,703
経常損失(△)	△6,599	△48,972
特別利益		
固定資産売却益	180	—
貸倒引当金戻入額	2,098	—
特別利益合計	2,278	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△4,320	△48,972
法人税、住民税及び事業税	35,705	8,546
法人税等調整額	△35,439	△1,925
法人税等合計	265	6,621
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△4,586	△55,593
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△8,021	3,075
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,435	△58,668

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△4,586	△55,593
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	17,768	△41,191
その他の包括利益合計	17,768	△41,191
四半期包括利益	13,182	△96,785
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	21,203	△99,860
少数株主に係る四半期包括利益	△8,021	3,075

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	米国	ドイツ	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	173,259	255,643	492,000	920,904	—	920,904
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	557,673	343	1,899	559,915	△559,915	—
計	730,933	255,987	493,900	1,480,820	△559,915	920,904
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△1,467	18,025	23,582	40,139	△39,798	340

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△39,798千円には、セグメント間取引消去4,095千円及び配賦不能営業費用△43,893千円が含まれており、その主なものは、親会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成23年7月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	米国	ドイツ	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	249,931	120,961	451,284	822,177	—	822,177
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	444,547	546	845	445,938	△445,938	—
計	694,478	121,507	452,129	1,268,115	△445,938	822,177
セグメント利益又はセグメント損失(△)	20,569	△3,020	11,776	29,326	△49,809	△20,483

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△49,809千円には、セグメント間取引消去△8,476千円及び配賦不能営業費用△41,333千円が含まれており、その主なものは、親会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。